



おかえり スタインウェイ

愛三文化会館チャンネル収録

7月21日、オーバーホールを終え愛三文化会館に帰ってきたグランドピアノ「スタインウェイ」の搬入と調律、市出身のピアニスト進藤実優さん、チェリスト佐藤桂菜さんによるお披露目演奏の収録が行われました。同ピアノは、愛三文化会館が開館した平成3年に購入されたもので、4月1日から約2カ月のオーバーホール期間を経て、同館に帰ってきました。この様子は愛三文化会館公式YouTubeチャンネルで配信中です。



▲調律の様子も収録

▼ドライバーに商品を手渡す「シャトルズ」の選手



市内の飲食店を車に乗ったまま

おおぶドライブスルーテイクアウト開催

7月25日、市内の飲食店の自慢の弁当などをドライブスルーで販売する「おおぶドライブスルーテイクアウト」が一屋町二丁目ロータリーで行われました。このイベントは、新型コロナウイルスの影響で売り上げが落ちている商業者を支援することと感染症対策を踏まえたにぎわい創出を目的に商工会議所青年部が主催。会場には㈱豊田自動織機ラグビー部「シャトルズ」のメンバーもスタッフとして参加し、お弁当を受け渡しました。

▼画面を通してタマネギを調理するキッズ野菜ソムリエら



オンラインで食育体験

あいちの伝統野菜「知多3号たまねぎ」食育体験

7月23日、市が平成28年度から育成しているキッズ野菜ソムリエを対象に、Web会議システムで、大府市産のあいちの伝統野菜「知多3号たまねぎ」を使った「オンライン食育体験イベント」が行われました。このイベントは、石井食品㈱の協力で実施され、受講生の自宅、市役所、石井食品㈱をオンラインでつなぎ、市内で生産された知多3号たまねぎの紹介や料理教室が行われました。

水と緑に親しみながら

新池遊歩道完成

7月30日、新池遊歩道(若草町)の完成を記念し、関係者らによるテープカットと渡り初めが行われました。

新池の護岸に延長約100m、幅員2mの張り出し歩道を整備し、車道と歩道を分離することによって、交通安全の向上につながりました。岡村市長は「新池はウォーキングコースにもなっていますので、緑と水に親しみながら歩いていただければと思います」と話しました。



▲新池の上を通る張り出し歩道



▼決定した愛称を掲げる"ゴールデンクラブおおぶ"のメンバーら



ゴールデンクラブおおぶ

市老人クラブ連合会の愛称決定

8月4日、市老人クラブ連合会の愛称が「ゴールデンクラブおおぶ」に決定したことを同連合会の久野晃会長らが、岡村市長に報告しました。この愛称は令和2年3月2日～27日に公募し、応募総数269点の中から選考により決定されました。愛称の考案者は「金メダルのまちということもあるのでゴールドは入れようと思いました」と愛称への思いを話しました。

▼Web上でオンラインによる調印をする岡村市長



大規模災害に備えて

県社会保険労務士会と協定締結

7月31日、市役所で県社会保険労務士会との「大規模災害時における労働・社会保険等の相談に関する協定」締結式がオンラインで実施されました。市は、今後懸念される南海トラフ巨大地震やウイルスなどによる感染症拡大など、大規模な災害が発生した場合に、県社会保険労務士会の協力を得て、被災者の労働・社会保険などに関する相談業務を円滑かつ適切に実施し、生活の復興支援を図っていきます。

季節は気候だけではない

私にとって花火大会は夏の大きなイベントの一つです。バンクーバーでは、毎年7月・8月の1週間で3日間にまたがる「Celebration of Light」という花火大会が開催されています。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止になりましたが、開催していれば30回目の節目を迎えていました。

それは3カ国が自慢の花火を競い合う大会で、私は毎年見に行っています。昨年はカナダの他にインドとクロアチアが参加し、各国の音楽が流れるバンクーバーの海岸に多くの観客が集まります。

もちろん花火は世界中で楽しまれています。日本の花火大会の雰囲気は少し違います。まずは服装です。げたを履いて駅から花火会場まで浴衣姿で移動する姿を見かけると「あー夏だな」と思います。

次に屋台も日本らしさを感じます。屋台では、焼きそばやお好み焼きなど、おいしい食べ物がたくさん売っていて、夏祭りで食べるとさらにおいしく感じますよね。



▲足利花火大会の会場に向かう人々

日本の花火には長い歴史があります。私が昨年行った栃木県の足利花火大会は105回目でした。日本の花火大会を体験すると、そこに染み込んでいる長い歴史を感じます。

感染症の影響で、当たり前と思っていたイベントが急になくなると、季節を感じるのは気候だけではないことに気付きます。中部地区の花火も見たいので、早く日常生活が戻りますように。



大府市国際交流員
ケビン・ハンフリーズ

料金受取人払郵便

大府郵便局
承認

978

差出有効期限
2021年4月30日まで
(切手を貼らずに
お出してください)

郵便はがき
4 7 4 8 7 9 0
大府市中央町五丁目70番地

大府市役所
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢／ 歳 性別／ 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。
ご意見をお聞かせください。

広報広聴課 ☎(45)6214

「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けしてください。
- 4 ポストに投函してください。

Q1 今回の広報おおぶで、文字・色・構成などについて、見やすかった記事、見にくいと思った記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

見やすい() 見にくい()

理由

Q2 今回の広報おおぶで、面白い・役に立った記事、そうでなかった記事とその理由をお聞かせください。(下表の番号を記入してください。複数回答可)

面白い・役に立った()
そうでなかった()

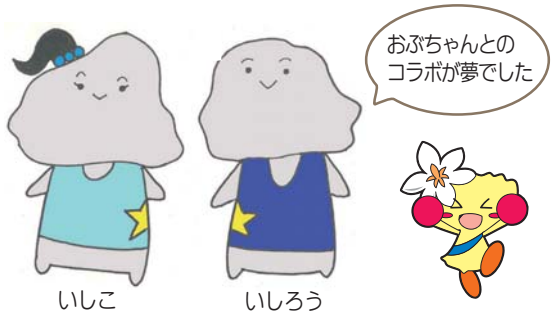
理由

Q3 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

1191

【この号の内容】 ①表紙 ②マンガ広報 ③特集「大府市は、市制50周年を迎えました。」 ④特集「大府を語る特別座談会」 ⑤特集「大府の魅力・自慢がたっぷり」 ⑥特集「新たな施設が市制50周年に誕生。」 ⑦特集「令和3年度保育園・幼稚園入園のご案内」 ⑧大府市職員募集 ⑨新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ ⑩市制50周年記念事業トピックス ⑪市政News ⑫情報パック ⑬フォトNews ⑭The Kevin Report ⑮学び舎探訪 ⑯給食5つ星レシピ ⑰夢キラリ人 ⑱その他



イッシーズプロフィール

名前：イッシーズ (いしろう・いしこの双子)
 誕生日：1月4日
 性格：明るく、正義感があり、たくましい
 趣味：石ヶ瀬川で石拾い
 特徴：いしがせっ子の幸せがエネルギーになる



石ヶ瀬小学校 愛されキャラ「イッシーズ」

皆さん、石ヶ瀬小学校にかわいいキャラクターがいることをご存じですか。その名も「イッシーズ」。二人の服に描いてある星が繋がるとパワーアップし、みんなに幸せを与えてくれます。

このたび先生の手により、イッシーズトランプが誕生しました。箱やトランプの絵柄がイッシーズになっていて、本格的な仕上がりに子どもたちから大好評。現在は各クラスに1セットずつ用意しています。

イッシーズをもっと身近に感じてもらうため、さまざまな企画を考えている児童会の皆さん。今後は、みんながイッシーズを描けるように絵描き歌を考えたり、イッシーズに新しい洋服を着せ替えたりしていきます。

子どもたちから愛されているイッシーズ。今後の活躍を期待しています。



柊山保育園で5つ星！



メキシコ風ピラフ

むきエビは、鶏肉に替えてもおいしいです。
 バターを20～30g入れて炊飯するとコクが増します。

材 料 (4人前)

米	2合	コンソメスープの素
タマネギ	1個	小さじ2強
ニンジン	3本	トマトケチャップ 50g
ピーマン	2個	カレー粉 小さじ3/4
ウインナー	3本	酒 小さじ1
むきエビ	120g	塩・こしょう 少々

作 り 方

- ① 洗米し、炊飯器に米を入れる。
- ② タマネギ・ニンジン・ピーマンは粗みじん切り。ウインナーは輪切り。むきエビは背わたがあれば除く。
- ③ ①にAの調味料を加え、規定の水加減をし、混ぜ合わせる。
- ④ ③の上に②を広げて炊飯する。
- ⑤ 炊けたら、ごはんをよく混ぜる。

多くの人の役に立ちたい

漫画家 竹内 文香さん



高校生のときに漫画雑誌「マーガレット」でデビューし、『友達ごっこ』『凛』『カテメン』などの作品を世に送り出してきた竹内文香さん。今年7月に発売したコミックエッセイ『おかあさん、お空のセカイのはなしをしてあげる！』が子育て世代を中心に話題を呼んでいます。

この作品は、竹内さんの長女が突然話した「胎内記憶」の話を漫画にして自身のSNSに公開したところ、口コミで広がり大反響を呼び、書籍化されたものです。評判は日本にとどまらず、アメリカの学会でも紹介され、「面白い」と評判を得ています。『こんな世界もあるのか』と子育て中のパパママの考え方の幅が広がり、子育てが楽になり、生きやすくなればいいなと漫画に込めた思いを話します。知るはずもない第1子の流産の話やその子が妹となつて産まれてくる話など長女が話すお空のセカイでの話が、流産経験者や不妊で悩んでいる人の心の支えになっています。

そんな竹内さんが漫画の世界に足を踏み入れたのは高校1年生の夏休み。「昔から漫画雑誌が好きで、特に素人が投稿した漫画を編集者が批評するコーナーが好きでした。投稿者の中には10代でデビューする子が何人かいたのです」と話す竹内さんは、暇を持て余していた夏休みに「自分も頑張ればデビューできるかも」と軽い気持ちで漫画を描き、投稿します。その作品がいき

なり入賞し、雑誌に名前と絵が掲載されると「とてもうれしかった。次はデビューできるかも」と漫画にのめり込みます。その後も投稿を続け、2回目で準入選を取り、専属の担当編集者が付き、4回目の投稿でデビューが決まり、高校3年生の5月にマーガレットの増刊号「ザ・マーガレット」で自身の漫画が掲載されました。

介護士を目指していたこともある竹内さんには、「人の役に立つ仕事をしたい」という軸があり、それは描かれる漫画にもよく表れています。「ただ恋愛で胸キュンするだけでなく、読んだ人が『勉強になった』『救われた』と思うものを発信したいと思っています。一つ一つのセリフを大事にしています。人間関係や人生で悩む人の救いになるような」。竹内さんの思いは読者に通じ、多くの感謝の手紙が届いています。

「多くの人の役に立っているツール」として漫画を描き続ける竹内さん。今後について「今回書籍化された漫画を全世界に発信していきたいです」と目を輝かせて話します。今後も竹内さんは、多くの人の心が救われる漫画を描き続けます。



▲大好評販売中
『おかあさん、お空のセカイのはなしをしてあげる！』

大府市は、令和2年9月1日に市制50周年を迎えました。市制50周年ごとに制作している市勢要覧を担当し、撮影や取材を通して、大府にはたくさんの誇れるものがあることを改めて認識しました。「大府を誇りに、大府を懂れに、大府をもっと好きに」。皆さんと一緒にこれからも大府を盛り上げていきたいです。(D)